

事例 5 ヒノキ特定苗木展示フィールドの造成

(九州森林管理局 技術普及課、熊本森林管理署)



- ・ 熊本県熊本市 きんぼうざん 金峰山国有林
- ・ (左) 展示フィールド近景(令和8(2026)年2月)
- ・ (右) 単木保護を行った特定苗木(令和8(2026)年2月)

ヒノキは建築用材等に広く用いられる樹種であり、将来のヒノキ資源の確保のため、ヒノキの特定苗木を開発・普及することが重要となっています。

このような状況を踏まえ、令和8(2026)年2月、九州森林管理局では、関係機関と連携し、ヒノキ特定苗木の展示フィールドを造成しました。

約3haのフィールドには、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターや熊本県林業研究・研修センターから提供された苗木14系統324本を植栽するとともに、同局と県林業研究・研修センターが共同で苗長・根元径の初期生育調査を実施しました。

同局では、引き続き、各系統の生育状況や気候への適応性等を継続的にモニタリングし、その成果を森林・林業関係者へ普及することとしています。